

# 民間活力を引き出すための支援策について



田村正幸

## 質問

景気の低迷と3年続きの地震、豪雪、暖冬少雪で、町民や事業者の厳しい経済環境での生活実態があります。町では魅力ある街づくりをめざして地域や観光協会などへの支援が行われています。

真の町の活性化のためには、これと並行して町民や事業者個々のやる気が一番大事で、これを喚起すること、現状を打開しようとする人たちへの支援が必要です。

魅力ある街にマッチした店舗の改装や、新たな事業展開等に新制度融資の考えはないか。

又、民間活力を引き出し、活力ある街を構築するために、個々に対する支援策をどのように考えているかお聞きします。

## 町長答弁

新規貸付可能な独自の制度資金として、湯沢町産業育成資金と湯沢町観光施設整備資金があります。産業育成資金は限度額1千万円

# 一般質問

で運転資金5年、設備資金7年、利率が補償付きで2.1%で店舗の改装や駐車場の設置も可能であり、新たな事業展開にも運転資金での対応が可能です。新潟県中小企業創業支援セーフティネット資金や財団新潟産業創造機構直接融資する小規模事業者への融資制度もあり、利率も低利なので町で新たに制度融資を作るより有利です。これらを利用していただきたい。個々への支援策については信用保証料の補助等について、県内でもトップクラスの支援を行っていきます。これを継続していきたいと考えています。

## 公衆トイレの設置について

### 質問

トレッキング・登山・川遊び、歴史探訪など自然を生かした観光誘致の取り組みがされています。交流人口拡大のために新たな設備投資より、今あるものの活用が大事でもっとも湯沢の自然を売り込むべき

です。最近、観光客やマンション居住者から、トイレの数が少ない。あっても貧弱だとの指摘が多くあります。最近の家庭のトイレはウォッシュレット対応が標準で、観光地での仮設のトイレや男女共同のトイレなどは敬遠されがちです。さわやかな湯沢を演出し、自然や観光資源をさらに有効活用するために、早急な改善と整備が必要と考えますが、今後の取り組みについてお聞きします。

## 町長答弁

湯沢のすばらしい自然環境は最大の観光資源でこれを目的に訪れる人が多くいます。トイレは観光客が集中する場所には必要不可欠なものと考えています。現在町内30数箇所を設置され、町内会や観光協会など地域の協力によって管理されています。新たに設置する場合は位置や費用対効果などを慎重に検討しなければと考えます。又、既設のトイレで老朽化したものについては湯沢町のイメージの低下につながるような計画的に修繕し、現状に合わないものは見直す必要があると考えています。プリンスホテルがスキー客の利用するトイレをウォッシュレットに変えたと聞いていますが、自分が使つて気分がいいトイレにするよう努力をしたと思います。



観光地にふさわしいトイレ設備を